

休館日：毎週月曜日休館

(11月23日は開館、翌日休館)

開館時間：午前9時30分～午後5時まで

(最終入館は午後4時30分まで)

会場：郡山市立美術館企画展示室

主催：郡山市立美術館

後援：ロシア連邦大使館、
ロシア国際文化科学協力センター

協力：日本航空

企画協力：アートインプレッション

観覧料：一般1,000(800)円

高・大学生500(400)円

※()内は20名以上の団体料金。中学生以下、65歳以上、障がい者手帳をお持ちの方は無料。



ニコライ・カサトキン(冬のライバル) 1890年
©The State Tretyakov Gallery



イワン・クラムスコイ(忘れえぬロシア) 1883年 ©The State Tretyakov Gallery

Unforgettable RUSSIA

国立トレチャコフ美術館展 Masterpieces from The State Tretyakov Gallery

忘れえぬロシア 2009年10月24日sat-12月13日sun

日本とロシア。このふたつの国を結ぶものとは何でしょうか？

まずあげられるのは、ロシア民謡でしょう。テレビが普及する前の日本において、若者たちは歌声喫茶で、「一週間」、「トロイカ」、「カチューシャ」、「ポリリユシカ・ポーレ」、「ヴォルガの舟歌」、「灯」、「カリシカ」といったロシア民謡を皆で歌って楽しんでいたものでした(最近では、民謡ではありませんが、「百万本のバラ」がヒットしたことは記憶に新しいところですよ)。

この展覧会は、まさにその歌声喫茶の時代に日本で歌われてきたロシア民謡が聞こえてくるような作品でいっぱい입니다。おそろしく、歌声喫茶で楽しんでいた方々にとっては、今回の展覧会に出品されているレービンやクラムスコイといった画家の名前はなじみがあるかもしれませんが、覚えやすいメロディに、明るくてもどこかに物悲しさをたたえたロシア民謡と同じように、彼らの作品には我慢強さ、厳しさ、といったロシア人の精神性といったものが表現されていると思われるます。

出品作は十九世紀中ごろから二十世紀初頭にかけてのもので、すべてモスクワの国立トレチャコフ美術館の所蔵品です。そこは、主にロシア美術を収蔵・展示する美術館で、その創始者であるロシアの実業家、バーヴェルトレチャコフ(1832~1898)とその弟セルゲイトレチャコフ(1834~1892)とが熱心に収集したものです。注目すべきは、彼らは、自分たちが生きている

間に活躍していた画家たちの作品を主に収集した、ということです。ですから、直接画家から購入したものや、画家に注文をして(時には修正まで求めて)描いてもらったものも含まれています。セルゲイの死後、作品はモスクワ市に寄贈され、モスクワ市立美術館となり、ロシア革命の翌年である1918年に、作品は市から国(ソビエト連邦)へ管轄が移り、現在の国立トレチャコフ美術館となりました。

兄バーヴェルは風景画を好みましたので、四季折々のロシアの風景を私たちは見ることが出来ます。時代はフランスの印象派勃興期。当然その影響を受けた画家たちもいますが、彼らは明るい色彩を用いながらも、明確に形をとらえてロシアの広大な自然を描いています。フランスよりも日中の時間が短いロシアに住む画家たちにとって、太陽の光がどれほど貴重なものであったのかを物語るような作品もあります。



ニコライ・ゲ(文豪トルストイの肖像) 1884年
©The State Tretyakov Gallery